

# 令和6年度第2回東京高輪病院地域協議会 議事要録

1. 日 時 令和7年3月13日(木) 16:00~17:00
2. 場 所 東京高輪病院4階会議室
3. 出席者 地域協議会委員 26名出席 (全27名中)  
欠 席 者 笠松所長

## (1) 開催挨拶 白土副院長

高輪病院としての地域の方々との連携というのは、非常に大きな柱の一つであり、協力なしでは病院の運営も出来ません。本日も多くの議題を用意させていただいております。本日はよろしくお祈りいたします。

## (2) 委員自己紹介：各委員より挨拶

## (3) 議題

### ① 診療科体制について

消化器内科は一時期1名体制での運営であったが、7月より3名体制での診療を行ってきた。来年度4月からは4名体制となり、より安定した診療を行っていきたい。循環器内科は4名体制で変わらないが、より経験値の高い人員が配置されより多様に提供していく。脳神経内科、腎臓内科は2名体制。認知症内科は1名体制で継続して提供していく。

外科系は整形外科中心に救急患者を積極的に受ける体制で維持する方針である。

5月に血管造影装置を最新のものに入れ替える。循環器内科、脳神経内科での血管内治療をより安定して提供できるものと考えている。

入口のデジタルサイネージにも表示をしている『2人主治医制』を進めているが、一定の効果があったもの捉えている。積極的にクリニックの医師へ紹介を行い、当院としては入院治療が必要な患者を中心に、診療を行っていく方針である。

### ② 地域包括ケア病棟の活動状況について

今年度4月~2月までの活動と直接入院の状況報告。病床稼働率は前半84.1%、後半は83.9%であった。入院の内訳は腰椎圧迫骨折や退院調整目的での入院が多かったが、地域のレスパイト入院も増えてきている。体験レスパイトの申し込みはなかったが、新規紹介でのレスパイト入院が後期では15件あった。

しかし、DV・ネグレクト疑い・老々介護・認知機能の悪化など、困難事例のご相談も多く寄せられた。先日も長期間のレスパイトを希望された方がいたが、馴染めず短期で帰ってしまったケースもあった。まずは短期間での受け入れを繰り返し行うことで、環境に馴染める状況を作っていければと考えている。

### ③ 認知症サポートチーム報告

週一回認知症患者のラウンドを行い、病棟看護師も含めカンファレンスを行っている。研修会も定期的に実施している。今年度から院内デイケアも開始し、週1回、5~8名1時間程度で開催している。今後は院内デイケアを週2回に拡大したいと考えているのと、ボランティアを募り、地域の方々にも認知症マップを使っただけのように活動していきたい。

### ④ 救急受け入れ状況について

時間外の患者数の推移について1か月300件程度で推移している状況となっており、コロナ終息後少なくなっているような状況。昨今世の中が通常に戻り、急性アルコール中毒や外国人の受診などが増

えている。時間外入院患者の推移は1月当たり50～70名程度で推移している。入院患者の70～80%は救急搬送患者となっている。

#### ⑤ コロナ受け入れ状況報告

数年前のような爆発的に入院患者が増える状況はない。高齢者施設から一定数入院される傾向は終息後も続いている。

#### ⑥ 診療（病病）連携の状況について

高度医療機関が周辺には多く存在し、地域内での医療機関の役割・機能を発揮しやすくするため、連携協定の締結を推進している。山王病院と10月に新規締結した。連携協定締結12病院中、患者連携件数が多い7病院について報告する。

包括ケア病棟が急性期よりも圧倒的に相談件数として多い傾向にある。病院内訳としては虎の門、日赤、済生会、NTTが包括への相談が多く、急性期の相談が多いのが慈恵、昭和となっており、聖路加はいままで急性期の相談が多かったが、今期は包括への相談が多かった。

7病院中、昭和以外からの相談件数が年々減少している状況。相談しづらい状況、近隣の状況を直接担当者からヒアリングし意見の調整をおこなっている。

当院から下半期に転院を依頼した内訳に関しては、高度医療を必要とする患者、当院に無い診療科の対応を要する患者となっており、非常に助かっている。

#### ⑦ 訪問看護ステーションについて

開設から6年を迎え少しずつ利用者も増えている。訪問リハも週に5回行けるような体制となっている。最初から利用されていた方の利用が終了する時期になっている。今年度は利用者が少し減ってしまうような状況もあったが、新規の利用者獲得に向けても進めている。

老々介護や認々介護が増えてきている実情があり、夫婦だけではなく親子や兄弟でというケースも増えており、双方で導入という事例も増えている。1週間で2回訪問することで家の状況がみえてくる工夫も行っている。

#### ⑧ 国際部活動報告

JCHOの中で唯一国際部が組織として認められている病院。対応言語は英語、北京語、広東語、ロシア語に対応している。周辺環境、品川駅やゲートウェイ付近の再開発により、在日外国人の増加も見込まれる。来年度5月から中国語対応を1名増やす予定である。

#### ⑨ 患者満足度調査について

##### 【入院】

入院を勧める＝85％／医師との対話満足度＝89％／退院後の説明について満足＝76％／入院食満足度＝50％

##### 【外来】

外来を勧める＝67％／医師との対話満足度＝78％／院内掲示満足度＝41％／待ち時間満足度＝18％  
待ち時間については継続課題であると捉えている。

#### ⑩ 市民公開講座開催状況について

令和6年度より対面での公開講座を再開。今年度は2回開催した。1回目は『認知症に向き合う』をテーマに90名参加。2回目は『肩のあれこれ』をテーマに95名参加。ミニレクチャーを以前の動画配信をもとに直接医師が解説する企画も行っており、次年度も計画している。

#### ⑪ コンサート開催について（JCHO10周年記念コンサート・クリスマスコンサート）

11月に当院の医師・看護師・事務員による10周年記念コンサートを開催し、200名の来場があった。12月に頌栄女子学園の生徒によるハンドベルコンサートを開催し、200名の来場があった。

⑫ 港区総合防災訓練について

災害時の病院紹介コーナーで、当院作業療法士副技師長による救護所でのトリアージなどについて講義を行った。

⑬ 無線医療事業について

全国健康保険協会船員保険部と契約し、船舶（船員）へ医療助言を行っている。12月に船舶衛生管理者への講習も実施。東京会場で20名が受講。

※全国健康保険協会船員保険部作成DVDを視聴

意見交換（◇＝外部 ■＝内部）

- ◇ 患者の入院が少し減っていることについて、体制の変化など原因はあるのか。
- 呼吸器の常勤医がなかなか見つからないというのも要因の一つ。冬期は入院患者が増えるので例年とほぼ変わらない。昨年と比較すると若干増えている。
  
- ◇ 南町町回報について打ち合わせをどのようにすればよいか。
- 私（事務部長）が窓口になります。いつでも連絡ください。
  
- ◇ 包括病棟や訪問看護ステーションには連携いただきお世話になっている。今後もレスパイトや虐待のことなど情報を連携し利用させていただきたいと考えている。認知症サポートの報告も大変興味深く聞かせていただいた。今年度から区より認知症コーディネータも配置されたので、今後とも情報交換させていただきたい。
  
- ◇ 高齢者支援課から来年度の新しい事業を紹介したい。終活にはいろいろな捉え方があるが、10月よりエンディングプラン登録事業を始める。区へ個人の情報を登録しておく。緊急連絡先や生前契約など。必要時（緊急時）に警察、消防、医療機関、親族、友人に開示して行くという取り組み。

(4) 閉会挨拶 日山副院長

3月27日高輪ゲートウェイの街開きが行われるそうで、近未来の町が出来上がると思います。一方この地域は古い町並みです。高齢化している面もあるかと思えます。両方の方々を視野に入れて通常医療、救急医療、災害医療を実践していきますので、今後も様々な意見をいただければと思います。

○次回開催日時について

- ・次回は令和7年9月25日 木曜日 16:00 開催を予定